

キーワードは「本当の優しさ」と行動力

本当の優しさと厳しさ

濱添 私がPTA役員を始めたのは、私自身が過干渉な親だったからなんです。家では何でもしてあげて、子どもが学校でどうしているかさえ気になって、小学校にしょっちゅう行くうちに気付けば会長に(苦笑)。でも末娘が中3になった今では、一歩引いてわが子や学校のことが見られるようになってきました。

長尾 昔は「厳しい親ほど温かい」という言葉がありました。多分、わが子が将来大人になって一人で生活していくときに困らないように自分でさせてみるとか、そのためにはやはりここで親として厳しく教えてあげないととか、そんな気持ちがあったんでしょう。

池田 私は自然の家に五年ぐらいたんですが、火をつける時も待てなくて先生がつけたりしていました。危ないとか怪我をするかもと思っても、それをさせてみるというのが、実は将来につながる優しさかもしれない。待てるというのはすごい愛情だと思います。

コロナのさなかでできることは

濱添 「優しさ」という話で言うと、最近のコロナの問題ではこの優しさが今一度問われている気がします。うつるのはこわいけれど、それを子どもに伝える時に、一旦立ち止まって、保護者の皆さんに考えてみてほしいです。

長尾 マスクをつけさせてほしいと言うことを保護者をお願いしましたが、「なんでマスクをするのか」と立ち止まって考えたとき、「人からうつされないように」という気持ちではなく、「自分がうつしたら悪いから、自分はマスクをするんだ」というふうな気持ちになることが大



切なのは。人が悪いとか、敵対視するような態度とかではなくて、自分がそうやってうつってしまったらと考えられるのが、思いやりの優しさ

ではないのかなと思います。

濱添 コロナについては、両極端でまだまだ蚊帳の外の人がいて、逆に医療従事者のご家庭はピリピリしていて、いろんな場所にも行けないし、家族も行けない。本当に締め付けられた生活をされています。多分1つ1つの言葉や、マスクをつける、つけないにしても、すごく過敏に反応されています。大変厳しい状況ですが、こういう時代だからこそ、子どもたちに教えられることがたくさんあるのかなと思います。

長尾 今回の医療関係従事者の方々の心労を抜きにして、思いやりや優しさを子どもたちに語ることはできません。また、心配なのは人と人の距離感の問題です。ソーシャルディスタンスというのがあるけれども、気持ちまでもソーシャルディスタンスになってはいけないし。

濱添 物理的に距離を縮めて話すことで伝わってきたことが、これまでたくさんあります。今は過渡期で、また新しい形のコミュニケーションの取り方とか、出てくるのでしょうか。

長尾 私たちはこれまでを知っているのに違和感があるけれども、それを知らない人はこれからのやり方が当たり前になるかもしれないし。講演会などもその場の雰囲気などがあって、それがあってこそとか今は言うけれども、これからは画像だけとかで伝わるように、感情の方が変わっていくかもしれません。

濱添 そんな中で子供たちは生きていくわけですから、今の私たちよりももっと相手のことを考えたりとかしないと、本当に寂しい人間関係になってきそうな気がします。

いろんな視点で見てみる

濱添 本当の優しさというか、子どものことを本当に思うなら、十年ぐらい先を見て今のことをしてあげないと、十年後の彼らのためにならない。最近はそういう「想像力」が大切だと思うんですが、私たち親も先生方も一旦立ち止まって想像力を働かせてみる必要があるですね。例えば、子どもが友達に言われたことだけに注目するのではなく「お友達はこう思ったんじ

やない？」と言うような会話ができるといいかなと思います。

長尾 違う視点で子供に話をするというのはとても大事ですね。私自身もそういう親になりたい。共感するというのは大事ですが、それで終わるのではなくて、一歩先が見えるような助言をしてあげられるといいですね。

池田 私も子どもには人の心に寄り添えるような子になって欲しいなと思っています。クラスで落ち込んでいる子がいたらそばにいてあげるとか。あとは、ごめんねやありがとうが自然に言える子になってほしいですね。そのためにも感性を磨かないといけないなと思っています。

濱添 それはきっと親がどれだけ人に寄り添えるか、どれだけごめんねやありがとうを言えるかでしょうね。子どもは親をしっかり見ていますから。

池田 あとは過程を褒めてあげないといけないとよく言われます。結果ではなく、それまでの過程がどうだったかということにフォーカスしてあげないといけない。さっき出てきた、視点を変えるということと共通しますね。



子どもをみんなで育てるということ

濱添 PTA 役員をしていると、いろんなお話を聞く機会があります。今は生きるだけでも大変な子どもたちがたくさんいて、それを思えば、親としては家では子供がリラックスできるように、笑っておけばいいかなと思うんです。上を見れば勉強も運動もできた方がいいけれど、将来いろいろつまづくことがあっても、そのたびそのたびに立ち上がって行けばいいかなと。同じように子育てしていても、子どもによって欲する愛情が違って、100 なければ足りない子もいれば 50 で足りる子もいます。その辺が子育ての難しさかなと思います。

長尾 あくまでも推測ですが、外で学んでいるのかもしれないですね。親が知らないだけで。多分その子は、何かで学んでいるのかもしれない。

濱添 なるほど。それは学校とか地域で影響を受けてい

るんだと思います。PTA をする中でよく話すのが、自分の子どもは家庭の力だけで育てているのではなくて、先生はもちろん、中学生にとってはお友達の影響はとても強いんですね。

長尾 そうですね。悩みごともお友達にまず話すだろうし。

濱添 でもお友達の環境を作り出しているのもその家庭やその周りの環境なんです。だからそのお友達にも良い環境の中で育てほしいと思うんです。そうするとわが子も学校で楽しく過ごせるだろうし。だから回り回って、わが子も周囲に影響



与えるなら、少しでもいい影響が与えられるように、私もしっかり子育てをしないとイケないなと思うんです。みんなで育てていくってそういうことじゃないでしょうか。

池田 コミュニティは広いに越したことはないですからね。

長尾 これまで「自分を大切にしてください」ということを学校教育の中でよく言ってきましたが、それは自分を大切にすれば人を大切にできるようになる、人に優しくなれるからなんです。でも今は、「自分を大切にしてください。そして自分だけでなく、同じように他の人も大切にしてください。」と、あえてこれまで言葉にしなかった（ ）かっこの部分も言わないと、ほんとに自分だけを大切にすることだけで終わってしまいそうです。ですので、会長さんが言われたみんなで育てていくということの意味を理解して、まずは自分の家庭で子どもをしっかり育てることが間違いなくいい社会を作ることにつながると思います。

気づく力

濱添 今年度の学校教育目標「自ら気づき、考え、互いを尊重し、夢実現に努力する生徒の育成」は今の子どもたちにとって本当に大切な力だと思います。特に、最初の「気づく力」と言うのはとても重要だなと思います。それがないと、改善もできないし。

長尾 言わなくても気づく子もいれば、言われて初めて気づく子もいますからね。学習なのかなと思います。一回経験したことに次に気づけるかどうか。

池田 センサー自体がない子もいますし。だから、即時評価して「今はこうしなくちゃいけないんじゃない?」と言うことを、こっちが埋め込んであげないといけない子もいます。相手が友達だったら気づけると言う子もいます。琴海中の生徒なら気づけると言う子もいると思います。だからその関係性がどうなのかということかなと。マスクをしない子も隣にお年寄りが住んでいて、その人と仲が良かったら「私がうつしてはいけない」というふうになるかもしれません。関わった経験がないと、思いを配れないと言うのは子供の特性かもしれないですね。

濱添 経験が大事とか、小さい時からいろんな体験をさせてとか言いますが、作り込んだ体験ではなくて、本当にそういう日常のことですよ。だからいろんな立場に子どもを置かせたり、ちょっとハードな場面にも親や先生が手を出さずに置いておくことが大切なのもかもしれませんね。

琴海中ってどうですか？

長尾 うちの子たちは非常に優しいですね。そういうことを随所に感じる時があります。朝から校門に立ちますが、横断歩道の信号を押す時も、他の子を待っていてくれるし。

池田 私は学級通信をいま38号まで出したんですが、実は前任校では全然出していなくて(苦笑)。琴海中は書きたいと思わせる何かがあるんですよ。いつもいろんなところに必死でメモしています。

濱添 そうやってアウトプットする目的があれば、何につけ見方が全然違いますよね。いろんなものが見えてくると思います。

長尾 教員は授業をしてアウトプットするのが普通ですが、そういうふうを書いたり、保護者と話をしたり、違うやり方でアウトプットをすることも大事ですね。

濱添 それはこれからの子どもたちにも求められる能力なので、ぜひ先生方がよい見本を見せてくださいね。

学校と家庭で連携していきましょう

池田 赤ちゃんがお腹にいる時に音楽を聞かせて育てるといい子に育つと言いますよね。音楽を聞かせようと言うようなお母さんに育てられるから、いい子に育つの

かなと思うんですが。

濱添 音楽を聞かせるようなお母さんは、子供が生まれてからもいろんなことを子供にしてあげようとするでしょうから。問題はその度合いだと思います。変に手をかけすぎてもいけないし、あとはどれだけ離れられるか。私も上の子たちにはべったり付きっきりでいろんなことをしていましたが、そのうち学ぶんですよ。子どもは自分が本気にならないと何もやらないんだって。言われてやった事は結局実にならない。自分が気づいてやったことじゃないと自分の為にもならない。それなら言わないほうがマシかなと思うようになりました。

長尾 教員もそこが難しいところで、「語り続けることが教育である」と言われるように、言い続けたいといけないうし。卒業するまでにいろんなターニングポイントがあると思うんです。その時々親が気づいて、どう対処してあげられるか、それが大事だと思うんです。

濱添 お友達と揉めるとか勉強で悩むとか、いくらでもあると思うんです。でもそこが成長ポイントでもありますよね。そこでうまくタイミングよく声かけられればいいですね。

長尾 そうですね。その時1番良いのは、保護者と教員が手を取り合っていければと思いますね。

濱添 学校と家庭で違う顔を見せる子どももいますよね。そこを先生方も大変だけれど、知らせ合うことができればいいですね。

池田 それを批判的ではなくやっていくためには、普段からの関係性を作っておかないといけないと思います。だから僕は何もない時に保護者の方に電話をするようにしています。「今日こういうことがよかったですよ」とか。学級通信もたくさん出すことで「今日はないの?」と言うような親子の会話でもできればいいかなと思っています。学級通信でよその子のこともわかるし、そうすれば次にその保護者に会ったときにお話もできますし。

濱添 子どもを軸にこうやって出会った先生方と、このご縁を大切にしながら子育てできればいいですね。これからもよろしくお願いします。